

第4節 県総合博物館

1 設 置

宮崎県総合博物館は、考古・歴史を柱とする博物館として、昭和26(1951)年4月に設立された宮崎県立博物館を前身としている。その後、昭和46(1971)年3月には明治百年記念事業に伴う整備事業により、自然と美術分野を加え、機能を充実させて総合博物館として開館した。

平成7年(1995)には宮崎県立美術館の設置に伴い美術部門が移管され、また、平成10年(1998)5月には21世紀に向けた文化施設にふさわしい博物館に再生するため、「県総合博物館再編整備事業」により、展示室等を改修し、リニューアルオープンした。

現在本館には、自然史、歴史及び民俗の3つの常設展示室があり、宮崎の自然と歴史について約8,000点の資料を使って紹介している。

このほか、本館東側の民家園には、移築復元した民家(国指定重要文化財2棟、県指定有形文化財2棟)を屋外展示している。

【施設の概要】

- 本館・・・鉄筋コンクリート2階建(建築面積 4,122.29㎡、延床面積 7,366.74㎡)
 - ・常設展示室 2,645.80㎡(自然史 844.20㎡ 歴史 767.70㎡ 民俗 1,033.90㎡)
 - ・特別展示室 751.68㎡
 - ・その他(収蔵庫・事務室等) 3,969.26㎡
- 民家園・・・木造平屋建寄棟造(茅葺)
 - ・旧藤田家住宅(国指定重要文化財) 90.44㎡
 - ・旧黒木家住宅(国指定重要文化財) 131.88㎡
 - ・米良の民家(県指定有形文化財) 110.13㎡(本屋 78.37㎡、馬屋 31.76㎡)
 - ・椎葉の民家(県指定有形文化財) 137.97㎡

2 事業実績

(1) 調査研究

【調査研究の基本的な考え方と目標】

- 調査研究の基本的な考え方
 - (ア)県民に還元できるものであること。
 - (イ)本館の設立目標に沿ったものであること。
 - (ウ)将来展示等に活かされるものであること。
 - (エ)科学的・客観的なものであること。
- 調査研究の目標
 - (ア)館共通：宮崎の自然史と歴史に関する調査研究を行う。
 - (イ)分野別
 - ① 自然史分野：宮崎の自然に関する基礎研究を行う。
 - ② 歴史分野：歴史・民俗を通してみる郷土の伝統と地域性の研究を行う。

ア 個別テーマ調査研究

各部門の担当職員が個別の研究テーマを設定し、調査研究を以下のとおり実施した。

- ・動物：① 宮崎県南部沿岸におけるウミウシ類の調査
② 宮崎市で採集されたウスリーオオカミキリの記録
- ・植物：① 宮崎県沿岸に産する海藻類について
② 県内の照葉樹林に発生する発光菌類について
- ・地質：① 河川の蛇行と地質の関係について
② 五ヶ瀬地域の珪質岩より産出する三疊紀コノドント化石
- ・考古：① 古代・中世の日向国をめぐる社会景観の考古学的研究
- ・歴史：① ゴジラはどのようにして語られてきたか(特別展「レトロtoミライ」関連調査)
② 「日向記」に関する基礎的研究
- ・民俗：① 宮崎の焼酎について

【令和5年度の報告書】※令和6年3月発行の『宮崎県総合博物館研究紀要第44輯』に掲載した。

本年度から冊子体の刊行を終え、J-STAGE(科学技術情報発信・流通総合システム)によるオンライン公開(<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/mpmnh/-char/ja>)を開始した。

- ① 宮崎市で採集されたウスリーオオカミキリ(Callipogon relictus)の記録
- ② 宮崎県南部沿岸におけるウミウシ類の調査報告
- ③ 椎葉村の地衣類
- ④ 【五ヶ瀬川・北川水系総合調査報告】白岩山植物目録
- ⑤ 延岡市東部海岸産出の球状炭酸塩コンクリーション群
- ⑥ 宮崎県清武地域での入戸火砕流堆積物の堆積層について
- ⑦ 都井岬地域の漸新統日南層群より産出する星型生痕化石Asteriacites
- ⑧ 宮崎市立住吉中学校(島之内萩崎遺跡)採集の石製玉類
- ⑨ 宮崎県の焼酎について
- ⑩ 特別展「レトロtoミライ 一思い描いた未来予想図―」実施報告
- ⑪ 戦国期日向伊東氏の支配領域―『日向紀』ト翁本所収「分国中城主揃事」(通称 伊東四十八城)―の基礎的考察―

イ 総合調査研究

近年の開発や社会生活の変化などにより、私たちを取り巻く自然や人々の生活習慣が失われてきていることから、これらの貴重な自然や歴史に関する資料を記録に残すため、県内のエリアを設定して、動物・植物・地質・考古・歴史・民俗の6部門において、総合的かつ横断的な調査研究を行っている。

自然環境の形成や人の営みの基本となる水系に着目して、平成27年度から県内の一級河川を対象にした

総合的な調査研究を実施しており、令和元年度から令和5年度は五ヶ瀬川・北川水系に着目した調査研究に着手し、調査研究で得られた結果は研究報告会における発表や研究紀要により地域や本県全体に広く周知していく予定である。

【6部門のテーマ】

- ・動物：五ヶ瀬川水系の動物相について
- ・植物：五ヶ瀬川源流部の白岩山周辺の植物相
- ・地質：五ヶ瀬地域の秩父帯にみられる古生物相
- ・考古：五ヶ瀬川・北川流域の弥生時代から古墳時代の遺跡の動態
- ・歴史：五ヶ瀬川・北川流域における治水・活用の歴史
- ・民俗：川の道～五ヶ瀬川・北川を通してみた人々の暮らし～

ウ 調査研究報告会

総合調査研究や個別テーマ調査研究などの状況報告と、学芸課職員の専門性の向上を図る目的で、調査研究報告会を令和6年3月12日に本館で実施し、25人の参加者（うちZoomによる参加4名）があった。

【発表題目一覧】

- ・動物：宮崎県南部沿岸におけるウミウシ類の調査報告（誌上発表）
- ・動物：宮崎市で採集されたウスリーオオカミキリ（*Callipogon relictus*）の記録（誌上発表）
- ・植物：宮崎県北部の新雑種「タカチホタマツリスゲ」について
- ・植物：ロビー展「牧野富太郎が見た宮崎の自然」について
- ・地質：延岡市東部海岸産出の球状炭酸塩コンクリーション群
- ・地質：宮崎県清武地域での入戸火砕流堆積物について
- ・地質：都井岬地域の漸新統日南層群より産出する☆(ほし)型生痕化石Asteriacites
- ・考古：宮崎市松添貝塚出土の鯨類骨群
- ・歴史：伊東四十八城の実相
- ・民俗：宮崎県の焼酎について

(2)資料の収集・保存

ア 資料の収集

(ア)資料収集体数：4,160点

(イ)その他の資料：図書・文献等の収集 833点

イ 資料の整理・登録

① 資料の登録数

	分野・部門	登録資料数	(令和5年度登録資料数)
自然史	動物	63,759点	(58点)
	植物	63,437点	(4,071点)
	地質	6,723点	(61点)
	計	133,919点	(4,190点)
歴史	考古	1,717点	(10点)
	歴史	5,668点	(0点)
	民俗	12,932点	(0点)
	計	20,317点	(10点)
美術	工芸(刀剣類)	107点	(1点)
	彫刻(屋外展示)	9点	(0点)
	計	116点	(1点)
総 計		154,352点	(4,201点)

② デジタルミュージアムへのデータ登録

県教育庁文化財課が平成14年度から運営するサイト「みやざきデジタルミュージアム」へ、令和5年度は235件のデータ登録を行った。

ウ 資料の保存

- (ア)IPMウォッチング (年12回…展示室・収蔵庫・エントランス・研修室・管理棟 等)
虫菌害の発生の有無を調べ、資料保存に適した環境に改善するため、館職員による点検を行った。
- (イ)モニタリング (年12回…展示室・収蔵庫・エントランス(計80か所))
害虫の侵入及び発生状況を把握するために粘着トラップを設置した。
- (ウ)収蔵庫内の目視・清掃 (年12回)
- (エ)薬剤による管理 (9月に収蔵庫でガス燻蒸を実施。)

(3)展示

ア 常設展示

常設展示室は自然史、歴史及び民俗の3つのフロアからなり、宮崎の自然と歴史について、実物を中心に約8,000点の資料を使って分かりやすく紹介するとともに、解説等を行う展示解説員の配置や随時の資料入替えを行うことによりサービスの充実を図っている。

(ア)自然史展示室

本館1階にある自然史の展示は、「宮崎の森」「宮崎の水辺」「宮崎の大地」「宮崎の生物」「ふるさとの自然」の5つのコーナーから成り、学校教育はもちろんのこと生涯学習の場になるように、できる限り宮崎県の実物資料を中心に構築するとともに、生きものの生態などについては、ジオラマやレプリカ、模型等を使ったり、体験的装置や情報機器も導入することによって、来館者が肌で実感し、より親しめるよう工夫している。

また、屋外では、本館入り口北側に、串間市で発掘された縄文から弥生時代のクスノキや日之影町で

採取された二枚貝のメガロドン石灰岩を展示している。

(イ)歴史展示室

本館2階にある歴史の常設展示は、自然史展示室の照葉樹林ジオラマとの関連づけた導入部と、通史的に構成する「日向のあけぼのに生きる」「古代から近世を生きる」「発展しつづける宮崎」の3つのコーナーから成り、人々の生活史を大きな柱として、現在の宮崎地域の約2万年前の旧石器時代から現代にいたる歴史の流れを紹介している。

(ウ)民俗展示室

本館2階の歴史展示室に隣接する民俗の常設展示は、「山にくらす」「里にくらす」「海にくらす」「いのりとまつり」の4つのコーナーから成り、国指定重要有形民俗文化財の「日向の山村生産用具」をはじめとする実物資料を中心に、原寸大の模型や映像、パソコン検索等を多用して、観覧者が実体験しながら楽しめる展示としている。

また、導入部に配置した「民俗へのいざない」では、炭焼き小屋のジオラマを展示し、宮崎の豊かな風土と人々の営みを表現し、中央に配置した「こころのロード」では、映像と音声により県内の代表的な年中行事と人々の精神世界を紹介している。

(エ)多言語音声ガイドシステムの導入

海外からの利用者にも博物館設備を楽しみながら利用してもらい、宮崎の自然や歴史について幅広く知ってもらうための一つのツールとして多言語音声ガイド「音えんぴつ」を導入している。

イ 特別展示

(ア)「第43回SSP展～自然を楽しむ科学の眼～」

a 会 期：令和5年4月29日(土)～6月11日(日) 開催日数：38日間(無料入場)

b 主 催：宮崎県総合博物館、日本自然科学写真協会

c 趣 旨：写真に対する興味関心に応えるとともに、動物や植物、自然環境への関心を高める。

d 内 容：顕微鏡・科学、昆虫・節足類、水中・水棲生物、鳥類、哺乳類・両生爬虫類、植物・菌類、山岳・天体・自然風景に分類された144点の写真部門、12点の動画部門の作品を展示し、作品に登場する動物の剥製や乾燥標本、化石・岩石標本、模型、レプリカなどを展示した。

e 関連行事：① 開会式およびガイドツアー
② 子ども向け写真教室「生きものKids写真教室」
③ ギャラリートーク(実施5回)
④ 関連講座「SSPの作品にTRY!Ⅲ」

f 観覧者数：10,382人

(イ)特別展「レトロミライー想い描いた未来予想図～」

a 会 期：令和5年7月15日(土)～8月28日(日) 開催日数：39日間(有料入場)

b 主 催：特別展「レトロミライー想い描いた未来予想図～」実行委員会
(宮崎県総合博物館・宮崎日日新聞社・MRT宮崎放送・一般社団法人宮崎県教職員互助会)

c 趣 旨：高度経済成長期に入るとき盛んに描かれた「未来予想図」には、明るい物もあれば暗い物、とんでもない物もあり多種多様である。しかし、共通するのは、未来を明るくしよう、暗い物にはさせたくないという願いである。当時思い描いた未来が今どうなっているのか、今後の未来をどう描いていくのか3世代で楽しめる展示を行う。

d 内 容：小松崎茂氏の未来予想図と宮崎の子どもたちの描いた未来予想図の対比をメインに、その他、昭和レトロ商店街、アニメ・漫画・映画の各種キャラクター、高千穂鉄道ジオラマなどを展示した。各パネルには展示に協力頂いたクリエイター・コレクターの紹介とインタビューを掲示した。

e 関連行事：① 開会式および内覧会
② 小松崎茂の世界
③ CG・アニメーションの歴史
④ プロに学ぶフィギュア作成講座

f 観覧者数：30,188人

(ウ)特別展「黒潮はくぶつかん～日向灘から琉球列島の生きものと海の恵み～」

a 会 期：令和5年10月14日(土)～11月26日(日) 開催日数：38日間(無料入場)

b 主 催：宮崎県総合博物館

c 趣 旨：黒潮をキーワードに、本県から琉球列島の黒潮ルートの生きものや日向灘沿岸部の地形・地質、海岸部で暮らす人々の暮らし、海産物を使った郷土料理などを紹介し、さらに黒潮に洗われる宮崎の海は私たちの暮らしや生き物たちにとって大切な環境であることを認識し、日向灘や黒潮に育まれる自然を大切にすることを育む機会とした。

d 内 容：本県の沿岸部に生息する生物やの人々の暮らしと文化について、総合博物館の自然史部門と人文系部門全6部門によるバラエティーに富んだ幅広い内容の展示を行った。標本やレプリカに加え生体展示や造形作家木暮奈津子氏の協力によるユニークな作品展示や体験的なブースも取り入れ充実した展示構成となった。また、関連行事では、海を中心に環境や歴史、文化について幅広い視点で学んでいただける内容とした。

e 関連行事：① 講座「海藻ウォッチング」
② 宮崎と琉球列島の海岸の砂を比べてみよう
③ 新聞紙とペットボトルで海のいきものづくり
④ 日明・日琉交流と日向国
⑤ カツオー一本釣り体験と海の恵み販売会、深海生物に触れてみよう！
⑥ めざせ！海の化石ハンター
⑦ 食中毒と寄生虫～アニサキス観察会～
⑧ みやはくモンスタークエスト～海属性編～

f 観覧者数：17,649人

ウ エントランス・ロビー展示

本館1階のエントランスホールと2階民俗展示室前のロビーにおいて、1年を通じてトピックや季節ごとにテーマを設定し、部門の特色をいかした展示や、特別展に関連した展示、「宮崎の伝統工芸品」などの関連機関との連携した展示等を15回開催した。

エ 民家園

民家園は本館の東側に位置し、県内に残っていた地方独特の建築様式を持つ民家4棟を昭和47年から昭和53年にかけて移築復元したものである。これらのうち「旧藤田家住宅」と「旧黒木家住宅」は国の重要文化財に、「椎葉の民家」と「米良の民家」は宮崎県の有形文化財に指定されている。

平成26～27年度に「旧藤田家住宅」と「旧黒木家住宅」の保存修理を実施し、引き続き平成28～29年度に「米良の民家」と「椎葉の民家」の保存修理を行い、令和元年度より、民間主体による民家園利用事業制度をスタートし、令和5年度は17回の利用があった。

(4)教育普及

本館の収蔵資料等を活用しての学校教育支援や博物館等講座を実施した。また、これらの博物館活動を展開するために関係機関・団体等の連携を図った。

ア 学校教育支援

(ア)学校の受け入れ（令和5年度実績：計181校）

- ① 小学校：73校
- ② 中学校：4校
- ③ 高等学校：4校
- ④ 特別支援学校：5校
- ⑤ 幼稚園・保育園・認定こども園：95校

(イ)授業への支援（令和5年度実績：8校）

本館職員が直接生徒や学生に説明や指導を行った。

- ① 宮崎大学地域創生学部との連携：90名
- ② 宮崎大学教育学部附属小学校「授業支援（民俗部門）」：70名
- ③ 宮崎北高等学校「フィールドワーク」：40名
- ④ 宮崎西高等学校附属中学校「青島亜熱帯植物観察会」及び事前学習：80名
- ⑤ 日南学園高等学校顕学館地理総合の授業への協力：24名
- ⑥ 宮崎市立大宮小学校「授業支援（地質部門）」：152名
- ⑦ 宮崎市立木花台小学校への協力：51名
- ⑧ 小林市立東方小学校への協力：11名

(ウ)学校への資料貸出し

授業等で活用することの多い資料をセットにして学校への貸出しを実施

・令和5年度実績：小学校 3校、小中学校 1校、中学校 2校、大学 1校

(エ)職場体験学習・インターンシップの受入れ

中学校等の職場体験学習の受入れ

令和5年度実績：中学校 1校（200人）、教育機関 1機関（3人）

(オ)博物館実習生の受入れ

学芸員資格取得を希望する大学生の受入れ

・令和5年度実績：6大学（6人）

イ 展示解説員による普及活動

来館者へのきめ細やかなサービスを提供するため、平成12年度から展示解説員制度をスタートさせた。

展示解説員は、学校やその他の団体の来館時対応や展示解説を担当するほか、来館者の案内や問い合わせの対応を行っている。また、常設展示室において、紙芝居・クイズラリーなどの催し物の運営を行っている。

(ア)常設展示室の展示解説

・令和5年度に展示解説を受けた方：6,165人

(イ)催し物の運営

- ①紙芝居(毎週日曜日及び祝日)：令和5年度参加者（4,788人）
- ②むかしのあそび体験ひろば(毎月第1・3・5土曜日)：令和5年度参加者（4,236人）
- ③クイズラリー(通常版：毎月第2・4土曜日、特別版)：令和5年度参加者（757人）

(ウ)地域回想法「博物館で思い出を語ろう！」事業の実施

・令和5年度実績：54回

(エ)「博物館わくわく通信」の発行

・令和5年度実績：2回発行（4月・10月）

ウ 博物館講座

博物館講座は、本館がこれまで収集した資料や調査研究の成果をもとに、県民に自然や歴史に関する多様な体験・学習の機会を提供することを目的に実施している。年間を通じて部門ごとに実施する普及講座のほか、特別展示に関連して実施する講座を実施した。

(ア)普及講座（26講座中25講座を実施、参加者：608人）

部門	講座名	実施日	場所	参加者数
植物	地加江田溪谷ハイキング 「シダ・コケ植物観察会」	4月22日	加江田溪谷	13

歴史	地学芸員とさるく歴史散歩 in 青島地区白浜・折生迫	4月23日	白浜・折生迫	30
動物	かたつむり観察会	4月29日	神宮の森	18
動物	地見つけよう！海のお宝貝がら	4月30日	崎田浜	30
歴史	よろい・かぶと着用体験！	5月5日	エントランス ホール	6
民俗	地鶴戸山の民俗を学ぼう	5月6日	鶴戸神宮	13
地質	めざせ、恐竜ハカセ！ ～いつの時代も「歯」は命～	5月14日	研修室2	14
考古	ネアンデルタール人とホモ・サピエンス ～ヨルダン 砂漠の岩陰遺跡から人類交替劇の謎を追え！～	6月4日	研修室1	57
歴史	「小倉処平と西南戦争」 (宮崎の歴史を学ぶ1)	6月25日	研修室1	57
植物	地きのご観察会	7月1日	行徳山	23
動物	地宮崎はキャビア日本一！ チョウザメってどんな魚？	7月8日	県水産試験場 (小林支場)	23
動物	標本講座 みやはくモンスタークエスト ～光属性編～	7月22日	博物館 駐車場	中止 講師都合
植物	標本講座「押し葉標本をつくろう」	7月30日	研修室2	10
地質	標本講座 「宮崎のミニ岩石図鑑をつくろう！」	7月31日	研修室1	33
自然史	採集作品の名前を調べる会	8月6日	情報室	25
植物	地日向岬で秋の海岸植物観察会	9月23日	フクトが浦	16
民俗	日向国の修験道について学ぼう ～野田泉光院を中心に～	9月30日	研修室1	25
地質	地大地のつくりを観察しよう(高千穂編)	10月29日	高千穂峡	24
植物	自然の色で染めてみよう	11月25日	研修室2	23
地質	地大地のつくりを観察しよう (霧島火山群編)	11月26日	えびの高原	17
歴史	地学芸員とさるく歴史散歩 in 日南市南郷町外之浦	12月2日	日南市南郷町	40
民俗	佐土原人形絵付け体験	12月9日	研修室2	20
歴史	「室町時代の日向国(2) 大覚寺義昭と串間」(宮崎の 歴史を学ぶ2)	1月20日	研修室1	33
考古	体験講座「ミニ銅鏡をつくろう！」	2月10日	研修室2	15
歴史	貝合わせを作ろう	2月18日	研修室2	23
考古	地中世の山城を攻めろ！ ～宮崎市穆佐城の巻～	3月2日	穆佐城	20

※ 地は地域講座

(イ)特別展示関連講座(14講座を実施、参加者：1,918人)

講座名	実施日	場所	参加者数
SSP展関連講座「生きものkids写真教室」	5月3日	博物館周辺	11
SSP展関連講座「SSPの作品にTRY!Ⅲ」	5月28日	研修室1	25
小松崎茂の世界	7月15日	研修室1	31
CG・アニメーションの歴史	7月29日	研修室1	28
フィギュア作成講座	8月19日	研修室2	31
海藻ウォッチング	5月20日	青島海岸	29
宮崎と琉球列島の海岸の砂を比べてみよう	7月16日	研修室1	12
新聞紙とペットボトルで海のいきものづくり	10月9日	エントランス	25
めざせ！海の化石ハンター ～黒潮がよんだ生きものたち～(化石の日)	10月15日	川南町通浜	53
日明・日琉交流と日向国	11月4日	研修室1	29
深海生物に触れてみよう！	11月5日	博物館 入口テラス	1,610
食中毒と寄生虫 ～アニサキス観察会～	11月12日	研修室2	10
みやはくモンスタークエスト ～海属性編～	12月16日	研修室2	24
カンムリウミスズメ観察会	2月24日	枇榔島周辺	中止 天候不順

エ 民家園を活用した普及事業

国指定重要文化財2棟、県指定有形文化財2棟の計4棟の古民家からなる民家園の活用事業（民家園民俗文化体験事業）を実施するとともに民家園ボランティアによる火入れ等や県内の語り部の会によるみやざきの昔話公演、民家園の貸出しなど実施している。

(ア)火入れ

民家園ボランティアによる民家の囲炉裏の火入れを毎週土曜日に実施した。

(イ)伝統文化体験講座

民家園で昔ながらの正月準備を体験しよう！

・実施日：令和5年12月23日（土）

・参加者：100人

(ウ)「みやざきの昔話」公演

毎月第3土曜日（9月、12月、1月を除く）に宮崎県内に伝わる昔話の公演を年9回実施した。

・参加者：174人

(エ)昔のくらし体験

民家園ボランティアが指導者となり、小学生などを対象に、各民家の囲炉裏や石臼、唐箕などの昔の道具の使い方の指導を年2回開催した。

・参加者：56人

(オ)民家園利用事業

個人や団体を対象に、民家園を利用する事業を実施している。放送番組の撮影やレコードコンサート、あやとり教室など17回の実施があった。

・参加者：512人

(カ)民家園春祭り

民家園内において、「昔の遊び」・「昔のくらし体験」・「昔話公演」・「民謡公演」・「太鼓の演奏」・「お琴の演奏」など様々な催しを開催した。

・実施日：令和6年3月16日（土）

・参加者：550人

オ 「どこでも博物館」事業

本館が所在する宮崎市から距離があり、訪れることが難しい地域の県民を対象に、博物館が出向き、展示の紹介や体験講座を行う「どこでも博物館」事業を平成27年度から実施しており、令和5年度は、7月（宮崎市 明星視覚支援学校）・11月（諸塚村 諸塚村民体育館）・12月（西米良村 西米良村立村所小学校）で実施し、計203人の参加があった。

カ 関係機関との連携

他の博物館や研究機関、さらに教育関係機関と連携し、調査研究等のための職員派遣・招聘、展示等に伴う資料の貸出し・借用、情報交換等を行った。

(ア)職員の派遣：

計19件（29回）

(イ)研究者等の招聘：

計21件（22名）

(ウ)視察・調査等で来館された関係機関：

計10機関（県外：7、県内：3）

(エ)資料の貸出し：

計11機関

(オ)本館が資料を借用又は展覧会等で協力を得た関係機関：計76機関

キ 名古屋大学博物館との相互協力協定

令和元年12月12日に名古屋大学博物館と相互協力に関する協定書を調印し、協定を締結した。令和5年度は、博物館講座として1講座（門脇誠二教授）を実施し、北浦地域の球状コンクリーションについての吉田英一教授の調査および記者会見に協力を行った。

ク 宮崎大学との連携

宮崎大学地域資源創成学部は、「地域理解実習」のカリキュラムにおいて「コロナ禍で地域社会・まちづくり・地域資源の利活用はどのように変化したか？」をテーマに大学周辺の3地域や都農町の現状・課題やまちづくりの取組について学んでいる。総合博物館ではこのカリキュラムにおいて自然史、歴史、民俗の地域資源についての講義を令和5年5月26日に行った。

ケ 福祉施設との連携

本館を利用する児童、高齢者、障がい者の福祉施設は、近年増加傾向にあったが、令和5年度は延べ177団体・施設、905人の来館となった。

このうち、高齢者福祉施設の認知症高齢者を対象に、平成27年度から展示解説員がコーディネーター役となり、博物館にある「昔の道具」等を用いて、「博物館で思い出を語ろう！」事業（他県では地域回想法とも呼ばれている）を令和5年度は計54回実施した。

また、施設が自分の施設内で回想法を実施する際に利用していただくために、「昔の道具」や「おもちゃ」などをパッケージにした「貸出しキット」を用意しており、令和5年度は7回の利用があった。

コ レファレンス対応

日常的に利用しやすい施設として地域や社会に貢献するため、「いつでも何にでも相談にのれる博物館」を目指し、来館時の質問だけでなく、電話やメールでのレファレンスに応じている。

令和5年度のレファレンス件数は、518件であった。

サ 県内研究団体の発表会

県内の自然史系研究団体が集い、お互いの研究成果を発表し合う合同研究発表会を実施しており、12回目の発表会を令和6年3月9日に実施し、52名の参加があった。

シ 博物館友の会の活動支援

博物館の活動支援を目的として平成11年8月に設立され、令和5年度で24年目を迎えた。

(ア)会 員 数：（個人会員：51人 ジュニア会員 0人 賛助会員：1団体）

(イ)物 品 販 売：「SSP展図録」を委託販売、「黒潮はくぶつかん」販売

(ウ)刊行物発行：会報「おーちゃんだより」118号～119号

ス 研修室の利用

3つの研修室（研修室1：60人、研修室2：32人、研修室3：8人）は、主に博物館の諸活動で利用してい

るが、外部団体から利用依頼があった場合、利用条件を満たしていれば、博物館活動に支障が来さない範囲で貸し出しに応じている。

令和5年度は、31件(746人)の利用があった。

セ 情報室の利用

「みんなの情報室」では、国内の主な博物館の図録や6部門の関係書籍の他、視聴覚資料を閲覧できる。また、令和元年から未就学児を含む親子などが楽しみながら学べる「むーちゃん広場」を設置した。令和5年度は1,332組4,021人の利用があった。

3 情報発信及び経営

(1) 情報発信

県内外の方々が、博物館に興味を持ち気軽に訪問していただくとともに、本館を訪れる際に十分に満足してもらうため、施設の運営状況や活動状況等に関する情報発信を様々な方法で行った。

ア 広報推進委員会：年12回開催

イ 博物館だよりの発行（年2回）

① みやはく通信 第4号 発行：令和5年4月 第5号 発行：令和5年9月

ウ ホームページの運用

(ア) 令和5年度更新回数：年705回更新（月平均/58.8回更新）

(イ) 平成28年から開設したSNSでは、Facebookが122件、X（旧Twitter）が134件、Instagramが118件の投稿を行った。

(ウ) ホームページへのアクセス件数：年間 318,829件

エ 県広報紙等への掲載

(ア) 県政けいじばん（毎月第2、4日曜：新聞5社に掲載）：年15回

(イ) 県広報紙「県広報みやざき」：年6回

オ その他の広報及びイベント

(ア) 4館見学ツアー（令和5年度実績：7団体316人利用）

(イ) 県庁職員の情報ネットワークを活用したイベント情報等の発信を行った。

(ウ) 令和5年4月29日(土)に県内の小学生3名を「一日博物館長」に任命し、第43回SSP展の開会式を行った。

(エ) 観光関係機関等へのPR

宮崎市内の観光案内所などの観光関係機関、国際交流関係機関、文化団体、館周辺の飲食店等を訪問し、ポスター・チラシなどを配布・説明を行った。

(オ) 博物館こどもDAY

令和5年11月5日(日)の文化の日に実施した。特別展「黒潮はくぶつかん」の関連イベントを隣接する埋蔵文化財センターの施設公開に合わせ共同開催し、両館を巡るスタンプラリーを設けオリジナル缶バッジの配布を行い、入館者を相互に行き来させる良い機会となった。

(カ) クリスマスツリー設置とクリスマスコンサート

来館者の少ない冬場に入館を促すため、クリスマスツリー設置やクリスマスコンサートを実施した。

(2) 経営

魅力のある総合博物館として適正な管理運営を行うため、来館者へのアンケート調査を行うとともに来館者の安全・安心を確保するため、職員研修や危機管理に対応する訓練等を実施した。

ア 来館者のアンケート調査

館運営に対する意見をいただく目的で、1階と2階にアンケート記入場所を設置した。

(ア) 個人アンケート（有効回答件数：873件※うち133件はオンラインアンケートの回答）

(イ) 学校団体アンケート（有効回答件数：53件）

(ウ) 一般団体アンケート（有効回答件数：129件）

(エ) 特別展アンケート（有効回答件数：1,525件※うち458件はオンラインアンケートの回答）

イ 職員の資質向上

(ア) 基本研修：全職員を対象にコンプライアンスや危機管理対応など基礎的な研修を年3回実施

(イ) 県外研修等：「学芸員専門研修」等に年17回、延べ9人の職員が参加

(ウ) 展示解説員への研修：学芸員の案内による自然や史跡などの実地見学や経験年数に応じた実務研修等

ウ 危機管理

博物館は、広く県民が利用する施設であり、毎日多くの来館者が訪れ、また、県民の財産である貴重な資料の収蔵や民家4棟を移築復元していることなどから、各種の危機事象に適切に対応するための「危機管理マニュアル」や「防火管理規程」を作成して、職員への防災・防火訓練を実施した。

(ア) 防災・防火研修（令和5年4月18日）

・危機管理マニュアルに基づく様々な危機事象に応じた対処方法等の研修

(イ) 避難訓練（令和5年6月15日・令和5年9月13日・令和6年1月27日）

・日向灘南部を震源とする震度5の地震を想定した防災訓練を計画し、全職員による避難誘導や伝達訓練を実施した。また、民家園からの火災を想定した防災訓練を、埋蔵文化財センター分館職員と民家園ボランティアの合同で行った。

エ 県内にある博物館等との連携

【宮崎県博物館等協議会】

(ア) 会員数：36施設（令和6年3月31日現在）

(イ) 令和5年度の活動状況

a 役員会、総会・第1回研修会：令和5年6月2日（金）

・会場：宮崎県総合博物館（内容：令和4年度事業報告、決算報告等及び令和5年度事業計画、収支予算・会員証および会費納入についての説明・研修会）

b 第2回研修会：令和5年10月6日（金）

・会場：木城町 石井十次資料館（内容：巡検・講演・協議）

- c 役員館の担当者会：令和6年2月28日（水）
 - ・方法：オンライン会議（内容：令和6年度の事業及び予算案の検討等）
- d 機関誌の発行
 - ・『宮博協だより 日向路の博物館28号』を令和6年3月に発行

第5節 県立西都原考古博物館

1 設 置

県立西都原考古博物館は、宮崎県総合博物館の構成施設であった「西都原資料館」を再編整備するとともに、同「西都原古代生活体験館」を構成施設に加え、平成16年4月に開館した。西都原考古博物館は、館と古墳群全体を一つの博物館と捉える「ワールドミュージアム」として、「NPO法人との協働」による県民参画型の博物館運営を行っており、「常新展示」の方針のもと、常時、約850品目の展示を行っている。

また、施設は「ユニバーサルデザイン」に重点を置いた設計で、安全・安心で利用しやすい施設となっている。

なお、構成施設は次のとおりである。

- 考古博物館 (延床面積6,678㎡) 西都市大字三宅字西都原西5670番
- 古代生活体験館 (// 1,014㎡) 同
- 西都原古墳群遺構保存覆屋 (延床面積1,394㎡) 古墳群内
- 13号墳内部主体見学施設 (// 22㎡) 同
- 4号地下式横穴墓保存見学施設 (// 21㎡) 同
- 鬼の窟古墳

2 事業実績

(1) 展示活動

入館者数 68,122人(内、特別展等開催期間 45,233人)

※令和5年4月1日～令和6年3月31日(開館日数302日)

ア 常新展

「プロローグ・古墳時代前史・前方後円墳の世界・地下式横穴墓の世界・古墳時代の終焉・律令体制の時代・考古学の世界・考古学研究所」を展示構成の基本に据え、常に新しい情報の展示を目指している。

イ 特別展等

(ア) 企画展 置県140年記念Ⅰ

「令制「日向国」の誕生～古墳から役所・寺院の時代へ」

会 期：令和5年4月22日(土)～令和5年6月11日(日)

入館者：9,794人

内 容：宮崎の地に律令制度が施行されることによる様々な歴史的な変化について、政治経済や生活文化といったテーマを通じて、西都原古墳群や日向国府・日向国分寺等からの出土品を紹介した。

関連事業

講 座：令制「日向国」の誕生

期 日：令和5年5月27日(土)

場 所：考古博物館ホール

講 師：宮崎産業経営大学 柴田 博子 教授

聴講者：70人

(イ) 特別展 置県140年記念Ⅱ

「大地を刻む～変化する日向の城～」

会 期：令和5年7月8日(土)～令和5年9月3日(日)

入館者：11,793人

内 容：中世から近世初頭(南北朝～江戸時代初め)にかけて、県内各地に築かれた「城」をテーマに展示。地名で確認できるものを含め、日向国に所在する530を超える「城」の中から、縄張り図の研究や発掘調査の成果としての出土品を展示・紹介した。また、島津氏、伊東氏、大友氏の戦い等、当時の緊張状態を背景に、度重なる改修が行われ機能や構造が変化していった。こうした「城」の変化について、理解を深める機会とした。

関連事業

講演会：「九州戦国史と宮崎県の城郭」

期 日：令和5年7月22日(日)

場 所：考古博物館ホール

講 師：立命館大学文学部 岡寺 良 准教授

聴講者：47人

(ウ) 国際交流展「農耕への道～九州・台湾における植物栽培のはじまり～」

会 期：令和5年10月7日（土）～令和5年12月10日（日）

入館者：12,833人

内 容：九州と台湾を中心とするアジアの農耕社会の発生をテーマとし、展示を行った。宮崎県の弥生時代研究史に触れながら、板付遺跡・菜畑遺跡など北部九州の遺跡に劣らず重要な都城市坂元A遺跡などの南九州の初期稲作遺跡の出土品、考古学的意義を紹介した。台湾については、近年新知見が蓄積されつつある植物珪酸体分析の成果や農耕用石器などを紹介し、九州との共通点、相違点についても触れた。また、ラオスやベトナム、西米良村など国内外の収穫具（民具）も合わせて展示し、農耕社会の成立過程、多様性について理解を深める機会とした。

関連事業

講演会：「九州と台湾：農耕は狩猟採集・漁撈民の社会をどう変えたか？」

期 日：令和5年11月11日（土）

場 所：考古博物館ホール

講 師：国立民族学博物館 野林 厚志 教授

イスタダ・アリーマン 氏

台湾国立自然科学博物館 李作婷 氏

聴講者：50人

(エ) 開館20周年記念イベント「ポスターで振り返る考古博の歩み」

会 期：令和6年1月20日（土）～令和6年3月31日（日）

入館者：10,813人

内 容：西都原考古博物館は、令和6年4月に開館20周年を迎える。これを記念したイベントとして、これまでに行われた、年4回、合計80枚の展示会のポスターをとおして、西都原古墳群とともに歩んできた博物館の歴史を紹介した。

(オ) コレクションギャラリー展Ⅰ ～絵葉書が語る西都原と遺物たち～

会 期：令和5年6月14日（水）～令和5年7月2日（日）

入館者：2,631人

内 容：大正時代から昭和初期の「西都原古墳群」や「西都原古墳群に関連する遺物」などが掲載された「絵葉書」を取り上げ、絵葉書に掲載された西都原考古博物館所蔵の遺物（レプリカを含む）とともに展示した。

(カ) コレクションギャラリー展Ⅱ ～根井保夫氏収集考古コレクション①～

土器・土製品編

会 期：令和5年9月6日（水）～令和5年10月1日（日）

入館者：3,820人

内 容：故根井保夫氏（元宮崎県の教諭、元宮崎考古学会監査）が収集されたコレクション312点のうち土器・土製品を展示した。

(キ) コレクションギャラリー展Ⅲ ～根井保夫氏収集考古コレクション②～

石器・鉄器編

会 期：令和5年12月13日（水）～令和6年1月14日（日）

入館者：2,348人

内 容：故根井保夫氏の収集コレクションのうち、縄文～古墳時代の所産とみられる石器を展示した。石器に記入された表採地の立地と環境についても紹介した。

ウ その他の展示 「ポスター展示 水田稲作技術比較研究プロジェクト」

内 容：東京都立大学山田昌久教授が主導する「水田稲作技術比較研究プロジェクト」を紹介するポスター展。全国10箇所で開催している同プロジェクトの実験水田を紹介するとともに、関連する西都原考古博物館所蔵の考古資料を合わせて展示した。

(2) 主な調査活動

ア 西都原古墳群保存整備事業

令和元年度から5か年で「西都原古墳群史跡整備推進事業」を実施しており、令和5年度は、同事業にて発掘調査を実施した、第1支群横穴墓群・西都原115号

墳・西都原291号墳および第3支群内の滅失古墳3基についての発掘調査報告書の作成を行い、「特別史跡西都原古墳群発掘調査報告書第16集」（2024年3月）として刊行した。本書では、地中レーダー探査と発掘調査結果に基づいた古墳本来の規模や構造および築造時期等を明らかにし、今後の保存整備に向けた基礎的なデータを記載することができた。

イ 世界遺産調査研究事業

非破壊的手法により地中の状況を把握する「地中レーダー探査」を実施し、西都原古墳群の全体像の解明と保存整備を目指している。本地中探査は、令和3年度から3か年で実施する「みやぎの古墳魅力発信事業」に位置づけられているもので、西都原の中間台地上に立地する鷺田支群を対象としている。令和5年度は、西都原古墳群210・212・306号墳を対象として行った。

また、古代歴史文化にゆかりの深い14県が連携した共同調査研究では、令和元年度より進めていた「古墳時代の刀剣類」をテーマとし、その研究成果を展覧会や成果図書で公開した。令和5年度からは体制を8県（埼玉県・奈良県・和歌山県・鳥取県・島根県・岡山県・佐賀県・宮崎県）に改め、「古墳時代の中央と地域」をテーマとし、共同調査研究を行っている。

ウ 博物館資料整備事業

考古資料（鉄製品、古人骨、土器、石器等）の整理、修復、保存処理、データベース化等の作業を行っている。特に経年劣化が進行する鉄製品については、国庫補助を受け保存処理を進めている。

（3）国際交流事業

西都原考古博物館では、開館以来、東アジア地域との学术交流を行っている。

開館からの5か年は、韓国から資料を借用しての「日韓交流展」を、平成21年度からは台湾を加えて、日台韓による「国際交流展」を開催してきた。こうした国際交流展示会の開催は、東アジア地域の学術文化交流促進事業による人的交流等を含めた調査研究の実践の成果である。

これまでに、韓国国立中央博物館考古歴史部・韓国国立中原文化財研究所と学術文化交流協定を締結し、共同研究・展示会の共催・職員の相互交流等を行ってきた。

令和5年度において、台湾関係では「2023新北市国際考古フォーラム-古代東アジア海域の文化交渉」に西都原考古博物館職員が発表者として参加、「2023新北市考古生活フェスティバル」にも勾玉製作体験のためのブースを出店し、西都原考古博物館職員2名が参加した（令和5年4月）。また、12月に十三行博物館から館長他2名の職員を招聘し、学術文化交流協定の5年間の延長を締結した。韓国関係では、学術文化交流協定館である国立羅州博物館の特別展に向けて、5～6世紀の「倭鏡」に関する情報提供や協力等を行った。

（4）普及事業

ア 考古博講座・講演会

講 座 名	聴講者数	実 施 日	講 師 等
企画展 I 関連講座	70人	5月27日(土)	宮崎産業経営大学 柴田博子 教授
特別展関連講演会	47人	7月22日(日)	立命館大学文学部 岡寺良 准教授
特別展関連講座	26人	8月19日(土)	宮崎県埋蔵文化財センター 吉本正典 所長
国際交流展関連講演会	50人	11月11日(土)	国立民族学博物館 野林厚志 教授、イスタダ・アリーマン 氏 台湾国立自然科学博物館 李作婷 氏 ボイシ州立大学 ユ・ペイリン 准教授
国際交流展関連講座	17人	11月25日(土)	西都原考古博物館 松本茂 主査
考古博講座	13人	2月10日(土)	西都原考古博物館 今塩屋毅行 主査

考古学講座	14人	2月24日(土)	西都原考古博物館 飯田博之 副館長
考古学講座	16人	3月20日(水)	西都原考古博物館 後藤清隆 主査
計	253人		

イ 体験・実験講座

講座名	参加者数	実施日	備考
印を作る	6人	5月21日(日)	
古代米を食す①「植える」	5人	6月4日(日)	
考古学って楽しい!	3人	7月29日(土)	
ガラスの簪を作る	5人	8月20日(日)	
アカネ色に染める	9人	9月24日(日)	
古代米を食す②「刈る」	7人	10月14日(土)	
古代米を食す③「蒸す・炊く」	8人	11月12日(日)	
西都原の埴輪を作る	10人	2月12日(月)	
計	53人		

ウ 考古博物館少年団

少年団活動は、古代の状況に近い体験や製作活動を通じて、当時の人々の知恵や技術を学ぶとともに、古墳群や身近な史跡への理解や保護についての意識を醸成することを目的としている。

令和5年度は、36人が登録し活動を行った。「古代のくらしを楽しく学ぼう」というテーマのもと体験活動を中心に行った。

エ 古代生活体験館

特別史跡西都原古墳群保存整備事業により、縄文、弥生、古墳時代の古代生活を学ぶ施設として、平成9年7月13日に開館した。通常の体験メニューは、勾玉、土器、埴輪、石器の制作と、アングイン編み、火起こし、鏡の鑄造体験で、希望者は来館時に申し込んで体験できる（団体利用は事前予約が必要）。

令和5年度に体験館を訪れた人数は9,586人で、その内の8,117人が実際に様々な活動を体験した。

(5) その他

ア 刊行物

- ・図録 特別展 置県140年記念Ⅱ「大地を刻む～変化する日向の城～」
- ・図録 国際交流展『農耕社会への道～九州・台湾における植物栽培のはじまり～』
- ・『宮崎県立西都原考古博物館研究紀要』第20号
- ・『宮崎県立西都原考古博物館年報』2022（令和4）年度
- ・『第1支群横穴墓群・西都原115号墳・西都原291号墳・第3支群の滅失古墳』特別史跡西都原古墳群発掘調査報告書第16集

第6節 県埋蔵文化財センター

1 設 置

宮崎学園都市建設をはじめとする大規模開発が増大するという情勢に対応するために、埋蔵文化財発掘調査体制の確立と、膨大な調査資料の整理・保管・活用を目的に、昭和56・57年度の国庫補助事業により埋蔵文化財センターを建設、昭和57年10月2日に開館し、県総合博物館埋蔵文化財センターとして業務を開始した。

平成8年4月1日に県総合博物館から埋蔵文化財の発掘調査機能をもつ県埋蔵文化財センターとして独立した。

平成12年1月20日に佐土原町（現：宮崎市佐土原町）に新築移転し、宮崎市神宮の旧本館を分館とした。

2 業 務

- ・埋蔵文化財の調査研究
- ・出土品その他の資料の保存及び活用
- ・埋蔵文化財の調査研究に係る図書その他の資料の整備
- ・埋蔵文化財関係者の専門的・技術的な研修及び指導
- ・埋蔵文化財保護思想の普及及び啓発

3 施 設

（本館） 宮崎市佐土原町下那珂4019
床面積 2,656.50 m²
・本館（鉄筋コンクリート造一部木造平屋建）
1,745.99 m²
・附属建物（鉄骨造）
整理作業棟 216.76 m²
・附属建物（鉄骨造）
収蔵庫棟 693.75 m²

（分館） 宮崎市神宮2丁目4-4
床面積 1,652.38 m²
・分館（鉄筋コンクリート造2階建）

4 令和5年度活動状況

（1）発掘調査

令和5年度は、田宮遺跡（延岡市）、東畦原第1遺跡（新富町）の2遺跡で本発掘調査を実施した。

（2）出土遺物等整理及び発掘調査報告書の刊行

埋蔵文化財センターでは、発掘調査で出土した遺物等の水洗、注記から実測、製図までの整理を行い、発掘調査報告書を作成している。令和5年度に整理を実施した遺跡は3遺跡で、内訳は県道改良事業1遺跡、砂防関連事業1遺跡、国道整備事業1遺跡である。なお、令和5年度は整理作業の終了した3遺跡について発掘調査報告書を刊行した。

（3）近代宮崎の出発点 西南戦争関連遺跡調査・活用事業（文化庁補助事業）

令和5年度から3か年事業で本県の西南戦争（明治10年、1877年）関連遺跡について所在地や現況の把握と、国史跡指定に向けて必要なデータ取得を目的とする確認調査を実施している。

また、市町村教育委員会・学校・地域住民との連携により関連遺跡の保存・継承を図るため、遺跡の所在する市町村での展示会や講座を計画する等、教育普及活動も行っている。

令和5年度は、墓・慰霊碑等101基、その他（建物等）3か所の悉皆調査を行った。

【悉皆調査一覧（墓・慰霊碑等）】

市町村名	墓 ・ 慰 霊 碑 等 名	基 数
高千穂町	有馬武二墓	1
木城町	招魂碑	1
新富町	招魂碑	1
宮崎市	丁丑戦死之墓、富永亀太墓、青山尚郎之墓、壹岐左平太之墓、伊東莊一郎之墓、小牧秀發之墓、坂本俊蔵之墓、中馬重信之墓、長友安貞之墓、野村正道墓、牧野田直内遺髪之墓、三島貢遺髪之墓、村田正宣墓、内田正武墓、河井田正福墓、右田文吉墓、調所千太郎墓、萩原直一郎之墓、吉原虎次之墓、池上市助墓、神崎良泰之墓、垂野信親之墓	22
日南市	飢肥隊墓地、正八位伊東直記之墓	58
高原町	招魂碑	1
都城市	都城殉難之碑、都城郷招魂塚、高野安樹招魂塚、招魂碑、明治丁丑之役従軍者記念碑、招魂碑、招魂碑、招魂塚、招魂塚、招魂墓	10
三股町	招魂塚、西南役従軍碑、西南戦争一番隊出兵者の灯籠、無名戦士の墓、鍋ふさぎの墓	7

【悉皆調査一覧（その他）】

市町村名	名 称	箇所数
宮崎市	帝釈寺	1
日南市	振徳堂	1
三股町	薩軍本営跡	1

【確認調査一覧】

	遺跡名	所在地	調査期間
1	笹尾台場群 5・8・11・13・15号	日向市美々津町	R5.9.19～R6.3.13（実調査日数21日）

【測量調査一覧】

	遺跡名	所在地	調査期間
1	大楠台場群 2号	日之影町岩井川	R5.5.23～R5.6.7（実調査日数5日）
2	笹尾台場群 1・2・3・4・6号	日向市美々津町	R6.1.23～R6.2.28（実調査日数6日）

（4）教育普及活動

令和5年度の教育普及事業は、文化庁の補助事業（令和4年度から令和6年度まで）として移動展示会を主とした発掘成果地域還元事業「ふるさとの遺跡再発見」を実施したほか、埋文講座（年5回）、遺跡発掘成果展 2023「再

発見！1990 年代調査の遺跡～県北編～」、施設公開、分館展示のほか、出前講座等のアウトリーチ活動を実施した。令和5年度の分館入館者は6,192名であった。

ア 発掘成果地域還元事業「ふるさとの遺跡再発見」（文化庁補助事業）

各種開発事業に先立って県内各地で行った発掘調査の成果を地域へ還元し、地域の特色ある埋蔵文化財の公開活用を推進するため、移動展示会と関連講座を3会場で開催した。

①名 称：発掘成果地域還元事業「ふるさとの遺跡再発見」

②主 催：宮崎県埋蔵文化財センター

③共 催：高原町・高原町教育委員会
木城町・木城町教育委員会
西都市教育委員会

④会場・会期

高原会場（高原町役場） 令和5年7月21日（金）～8月10日（木）

木城会場（木城町立みどりの杜木城学園） 令和5年10月24日（火）～12月7日（木）

西都会場（西都市歴史民俗資料館） 令和6年1月27日（土）～3月3日（日）

⑤観覧者数

高原会場 692名 木城会場 1,562名 西都会場 152名

合計2,636名（体験講座参加者含む。）

⑥関連行事（ギャラリートーク〔展示解説〕・体験講座（石器レプリカ、土器文様拓本、土器立体パズル）

高原会場 令和5年7月30日（日） 参加者63名

木城会場 令和5年11月11日（土） 参加者131名

西都会場 令和6年2月4日（日） 参加者36名

⑦ふるさとの遺跡学習会（移動展示会に関連した学習会）

木城町立みどりの杜木城学園 令和5年7月18日（火） 参加者55名

小林市立西小林中学校 令和5年7月21日（金） 参加者71名

高原地区小中学校（家庭教育学級）令和5年7月23日（日） 参加者22名

高原町立高原小学校 令和5年8月1日（火） 参加者51名

西都市立妻中学校 令和6年3月7日（木） 参加者180名

高鍋町立高鍋西小学校 令和6年3月12日（火） 参加者83名

イ 埋文講座

近年発掘調査報告書を刊行した遺跡の最終成果報告、また本県の歴史を考える上で重要な遺跡や当センターの事業報告の場として、分館研修室で講座を実施し、合計で147名の参加者があった。

開催日	講演名	講 師	参加者
第1回 R5.5.21	「霧島を望む台地に生きた人々の暮らし」 上平遺跡(都城市山之口町)	県文化財課 吉行 真人	36名
第2回 R5.6.18	ジュニア向け埋文講座 『教科書から紐解く「むかしの道具たち」』	宮崎県埋蔵文化財センター 小山 輝晃	11名
第3回 R5.8.6	ジュニア向け埋文講座 「探究！まいぶん ～自由研究のヒントを見つけよう～」	宮崎県埋蔵文化財センター 佐土瀬 英嗣	10名
第4回 R5.12.17	「清武川をのぞむ古代の暮らし」 陣ノ元遺跡①(宮崎市熊野)	宮崎県埋蔵文化財センター 江藤 建輔	40名

第5回 R6.2.18	「清武川と共に生きた弥生ムラ」 陣ノ元遺跡②(宮崎市熊野)	宮崎県埋蔵文化財センター 石塚 啓祐	50 名
----------------	----------------------------------	-----------------------	------

ウ 埋文センター施設公開

例年、埋蔵文化財センターの事業のPRと埋蔵文化財保護啓発の目的で「施設公開」を開催している。令和5年度は、文化財保護強調週間中の11月5日(日)に、「埋文センターで考古学体験」と題して分館において開催した。
【施設公開「埋文センターで考古学体験」】

開催日	開催場所	内 容	参加者
R5.11.5	・埋蔵文化財 センター分館	展示物解説、バックヤード見学、土器復元体験、土器拓本体験 土器パズル、発掘疑似体験、石器レプリカ製作、ドングリつぶし体験 石斧体験等	508 名

エ 遺跡発掘成果展

埋蔵文化財センターが1990年代に発掘調査した遺跡の資料を展示する遺跡発掘成果展2023「再発見!1990年代調査の遺跡～県北編～」を県立図書館2階特別展示室で開催した。成果展関連講座(ギャラリートーク)および埋文最新情報を実施した。

【遺跡発掘成果展2023「再発見!1990年代調査の遺跡～県北編～」】

開催期間	開催場所	展示遺跡	参加者
R5.8.18 ～ R5.9.3	県立図書館2階 特別展示室	鶴野内中水流遺跡、枝遺跡、門川南町遺跡、早日渡遺跡、布平遺跡、 古城遺跡、神殿遺跡、五ヶ村遺跡、南平第3遺跡、広木野遺跡、林 遺跡、蔵田遺跡、矢野原遺跡(13遺跡)	702 名

【ギャラリートーク】

開催日	開催場所	ギャラリートーク	参加者
R5.8.20	県立図書館2階 特別展示室	ギャラリートーク: 再発見!1990年代調査の遺跡 ～県北編～ 展示解説	10 名
R5.8.27	県立図書館2階 特別展示室	ギャラリートーク: 再発見!1990年代調査の遺跡 ～県北編～ 展示解説	25 名

【埋文最新情報】

開催日	開催場所	報告遺跡	参加者
R5.8.27	県立図書館2階 視聴覚室	樋口遺跡、都城(鶴丸城)跡、陣ノ元遺跡	25 名

オ 分館テーマ展示

分館の展示室において、埋蔵文化財センターがこれまでに発掘調査を行った遺跡について、遺跡ごとに出土遺物を紹介するテーマ展示を年4回行った。一部は埋文講座や遺跡発掘成果展などの事業との連携を図って構成した。

カ 出前展示

発掘調査で県内各地から出土した遺物等を各地域で展示し、発掘の成果を公開している。合わせて埋蔵文化財センターの業務内容についての紹介も行っている。令和5年度は、西南戦争関連遺跡調査・活用事業の成果展示を含め7回実施した。

開催日	名称	場所	内容	観覧者
R5.7.25 ～ R5.9.24	令和5年度西南戦争関連遺跡調査・活用事業 成果展示会 日之影の西南戦争 ～決戦！！大台場～	日之影町立 図書館	遺物展示	1,366名
R5.10.15	埋蔵文化財センター事業紹介 「埋蔵文化財センターってなあに？」	イオンモ－ ル宮崎	県埋蔵文化財センターの紹介 体験講座	125名
R5.11.1	全建緑陽会総会	ニ－ウエ ルシティ	遺構・遺物の説明・見学	86名
R5.11.17	宮崎県中学校社会科研究大会 (九州大会)	宮崎市民 プラザ	遺構・遺物の説明・見学	217名
R5.11.30	小学校社会科研究部会	延岡市立 東小学校	遺構・遺物の説明・見学	80名
R5.12.2 12.3	門川町の遺跡展	門川町立 中央公民館	遺構・遺物の説明・見学	50名
R6.1.27 1.28	広瀬西小校区芸能文化まつり	佐土原総合 文化センター	県埋蔵文化財センターの紹介 遺物展示・体験講座	831名

キ 出前講座

地域や学校等からの依頼に応じて、埋蔵文化財センター職員が県内各地に出向いて行う出張講座を実施している。それぞれの地域の遺跡や遺物の展示・解説、遺物に触れる体験、埋蔵文化財センターの業務紹介等を行った。令和5年度は、ふるさとの遺跡学習会等を含め23件の講座を実施した。また、オンラインによる対応も行った。

	開催日	学校名・機関名	対 象	内 容	参加者
1	R5.5.9	川南町立通山小学校 小学6年生	小学生	地域の遺跡紹介・遺物展示・解説	36名
2	R5.6.5	高鍋町立高鍋西小学校 小学6年生	小学生	地域の遺跡紹介・遺物展示・解説	87名
3	R5.6.13	美郷町立美郷南学園 6年生・7年生	小・中学生	地域の遺跡紹介・遺物展示・解説	19名
4	R5.6.15	門川町立草川小学校 小学6年生	小学生	地域の遺跡紹介・遺物展示・解説	38名
5	R5.6.19	高鍋町立高鍋西小学校 小学6年生	小学生	社会科学習との関連講座	87名
6	R5.6.22	都城市立木之川内小学校 小学6年生	小学生	地域の遺跡紹介・遺物展示・解説 体験活動	9名
7	R5.7.18	木城町立みどりの杜木城学園 小学6年 (ふるさとの遺跡学習会)	小学生	地域の遺跡紹介・遺物展示・解説 発掘現場とのオンライン中継	55名
8	R5.7.21	小林市立西小林中学校 全校生徒 (ふるさとの遺跡学習会)	中学生	地域の遺跡紹介・遺物展示・解説 発掘現場とのオンライン中継	71名
9	R5.7.23	高原地区小中学校(家庭教育学級) (ふるさとの遺跡学習会)	小・中学生 保護者	地域の遺跡紹介・遺物展示・解説 体験活動	22名
10	R5.7.29	日向市立図書館	小・中学生	地域の遺跡紹介・遺物展示・解説 体験活動	21名
11	R5.8.1	高原町立高原小学校 小学6年生 (ふるさとの遺跡学習会)	小学生	地域の遺跡紹介・遺物展示・解説 移動展示会場とのオンライン中継	51名
12	R5.8.4	宮崎市立生目小学校	教職員	地域の遺跡紹介・遺物展示・解説	15名
13	R5.8.17	国富町立図書館	一般	地域の遺跡紹介・遺物展示・解説 体験活動	17名
14	R5.8.22	高千穂町中央公民館	小・中学生	地域の遺跡紹介・遺物展示・解説 体験活動	14名

15	R5.9.12	日之影町立日之影中学校 中学2年生 (西南戦争関連遺跡調査・活用事業)	中学生	地域の遺跡紹介・遺物展示・解説 西南戦争関連遺跡とのオンライン中継	26名
16	R5.12.9	広瀬西小校区地域づくり推進委員会	一般	地域の遺跡紹介・遺物展示・解説 西南戦争関連遺跡の解説 宮崎の地質と石器石材	18名
17	R5.12.15	宮崎市立大塚中学校 中学1年生	中学生	地域の遺跡紹介・遺物展示・解説	231名
18	R6.1.28	広瀬西小校区芸能文化まつり	小学生 一般	体験活動(石器レプリカ作り)	57名
19	R6.2.22	宮崎市立広瀬中学校 中学3年生	中学生	地域の遺跡紹介・遺物展示・解説	150名
20	R6.3.7	西都市立妻中学校 (ふるさとの遺跡学習会)	中学生	地域の遺跡紹介・遺物展示・解説	180名
21	R6.3.11	美郷町立美郷北義務教育学校	中学生	地域の遺跡紹介・遺物展示・解説	31名
22	R6.3.12	高鍋町立高鍋西小学校 小学5年生 (ふるさとの遺跡学習会)	小学生	地域の遺跡紹介・遺物展示・解説 体験活動(石器レプリカ作り)	83名
23	R6.3.19	宮崎市立田野小学校 小学3年生	小学生	地域の遺跡紹介・遺物展示・解説 体験活動(石器レプリカ作り等)	120名

ク 現地説明会(調査報告会等)

発掘調査中の現場を県民の方に見学していただく遺跡の現地説明会を延岡市の田宮遺跡で開催した。

【現地説明会】

	開催日	遺跡名	開催地	内 容・対 象	参加者
	R5.11.12	田宮遺跡	延岡市	遺跡の概要、遺跡内の遺構・遺物の説明	62名

ケ 見学・研修等で分館に訪れた団体およびインターンシップ・職場体験の受け入れ

【施設見学】

	実施日	団体名	内 容	人 数
1	R5.4.9	お茶の会	研修・展示見学	4名
2	R5.4.22	宮崎地質研究会	研修	8名
3	R5.5.9	西都市立茶臼原小学校	展示見学・展示物解説	14名
4	R5.5.10	小林市立小林小学校	展示見学・展示物解説	106名
5	R5.5.19	宮崎地質研究会	研修	12名
6	R5.5.26	日向市立平岩小中学校	展示見学・展示物解説	20名
7	R5.6.2	綾町立綾中学校	展示見学	58名
8	R5.6.6	高原町役場	展示見学・整理作業研修	7名
9	R5.6.17	宮崎地質研究会	研修	9名
10	R5.7.14	宮崎県立明星視覚支援学校	体験講座	10名
11	R5.7.27	くるみ保育園	展示見学	52名
12	R5.8.16	のぞみ保育園	展示見学・体験講座	17名
13	R5.9.23	宮崎地質研究会	研修	10名
14	R5.9.29	埋蔵文化財担当者専門職員研修	研修	28名
15	R5.10.2	木城町婦人学級	展示見学・体験講座	14名
16	R5.10.20	都城市立西小学校	展示物見学	17名
17	R5.10.20	都城市立庄内小学校	展示見学・展示物解説	50名

18	R5.10.28	宮崎地質研究会	研修	12名
19	R5.11.6	宮崎市立鏡洲小学校	展示見学・展示物解説	26名
20	R5.11.8	宮崎市立生目台西小学校	展示見学・体験講座	34名
21	R5.11.8	宮崎市立佐土原小学校	展示見学	49名
22	R5.11.10	高鍋町立高鍋東小学校	展示見学・展示物解説	40名
23	R5.11.15	小林市立西小林小学校	展示見学・展示物解説	32名
24	R5.11.17	西都市立三財小中学校	展示見学・展示物解説	19名
25	R5.11.29	宮崎大学附属小学校	展示見学・展示物解説	102名
26	R5.12.8	川南町立川南小学校 家庭教育学級	展示物解説・体験講座	8名
27	R5.12.16	宮崎地質研究会	研修	10名
28	R6.1.13	宮崎地質研究会	研修	12名
29	R6.2.24	宮崎地質研究会	研修	10名
30	R6.3.2	九州弥生研究ネットワーク	研修及び資料調査	24名
31	R6.3.23	西都原考古博物館・東京大学・山形大学	研修及び資料調査	4名

【インターンシップ】

	期間	場所	内容	対象	参加者
	R5.8.21 ～ R5.8.25	県埋蔵文化財 センター 本館・分館	埋蔵文化財センターの業務体験 出前講座補助業務、発掘調査現場見学 展示作業補助業務、置県140年関連業務	大学生	3名

【職場体験】

	期間	場所	内容	対象	参加者
	R5.8.1 8.3 8.4	田宮遺跡（延岡市）	発掘調査の業務体験	高校生	1名

（５） 遺物整理及び収蔵状況

ア 収蔵庫（分館）

分館収蔵庫には、登録を完了した遺物や登録作業途中・待機中の遺物を収蔵している。令和５年度は、登録を完了した遺物と登録待機中の遺物を併せたコンテナ総数は7,250箱となった。

イ 収蔵庫（本館）

新収蔵庫には、主に本館で整理作業の終了した遺物や登録待機遺物を収蔵している。令和５年度は、コンテナ203箱を搬入した。また、東九州自動車道関連の調査で出土した礫の整理を行い37箱の圧縮となった。よって、本館の収蔵量はコンテナ15,072箱となった。

ウ 登録作業

分館における令和５年度の実績は6遺跡、コンテナ54箱である。登録累計301遺跡、登録済みコンテナ6,709箱となった。本館における同年度の実績は3遺跡、コンテナ203箱であり、登録累計118遺跡、コンテナ4,159箱となった。よって、令和５年度の本館と分館を合わせた登録収蔵総累計は、419遺跡、コンテナ10,868箱である。

（６） 図書資料収蔵状況

全国から送られてくる発掘調査等の報告書や購入書籍・雑誌類を図書室に集架している。令和５年度は1,506冊の受け入れがあり、合計収蔵数は87,454冊になる。図書管理システムによる図書資料の登録と、バーコードによる貸出・返却管理を行っている。

(7) 刊行物

発掘調査で出土した遺物等の水洗、注記から実測、製図までの整理を行い、発掘調査報告書を刊行しているほか、年報等を発行し埋蔵文化財への理解を深める一助とした。

ア 令和5年度刊行発掘調査報告書一覧

No.	報告書名	副書名	執筆・編集者
267	樋口遺跡	国道218号五ヶ瀬高千穂道路（室野工区）整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	留野優兵
268	都城（鶴丸城）跡	城山西側地区急傾斜地崩壊対策工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	小吹雅史
269	陣ノ元遺跡	一般県道学園木花台本郷北方線（山下工区）道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	石塚啓祐 江藤建輔

イ その他の資料

発行年・月	広報出版物
R 5. 8	宮崎県埋蔵文化財センター 年報 第27号 令和4（2022）年度
R 6. 3	令和6年度宮崎県埋蔵文化財センター 年間行事案内「EVENT CALENDAR」
R 6. 3	宮崎県埋蔵文化財センター 通信 「ひむか」26号

(8) 職員研修・会議等

独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所で実施している発掘技術者研修や全国公立埋蔵文化財センター連絡協議会主催の各種会議等に職員を派遣し、職員の資質向上と業務の円滑な推進を図っている。令和5年度は、5月に新型コロナウイルス感染症の位置づけが5類感染症へ移行したことに伴い、ほとんどの会議等が対面開催となったが、オンラインを併用して開催されるものもあった。また、発掘調査現場及びセンター内での安全衛生の増進を図るため、各講習会へ参加している。

(9) 職員派遣

市町村の教育委員会などに埋蔵文化財等の専門的・技術的な指導を行い、諸機関・団体主催講演会等の普及啓発行事にも職員を派遣している。令和5年度の職員派遣は14件延べ22名であった。